

SGH 研究開発事業 3 年目の取り組みを終えて

校 長 上 市 善 章

佐倉高校のスーパーグローバルハイスクール研究開発事業（SGH）は平成 28 年度の指定から今年度で 3 年目となり、今年度はじめて第 1 年次から第 3 年次までのすべての普通科の生徒を対象に実施することができました。そして、昨年度までの 2 年間での研究実践や運営指導協議会の委員の皆様からいただいた貴重なご指導ご助言を基に課題を整理し、校内での運営指導体制の見直しやテーマ決めに至る指導方法、ルーブリック評価についての改善、海外研修の実践内容の見直し等を行いながら実施してまいりました。なお、本校では平成 25 年度に文部科学省から指定されたスーパーサイエンスハイスクール研究開発事業（SSH）も今年度の経過措置を入れて 6 年目となりましたが、本校ではこの SSH 指定のメリットを生かすため、SGH 指定時から SSH との相乗効果を図って研究を進めてまいりました。先行した SSH の課題研究の手法等を SGH の研究活動に生かすことはもちろん、逆に SGH で目標としている「日本の歴史・伝統・文化を踏まえて多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーの育成」のための研究手法である「国内・海外に広く深く視野を向け、自国の持つ文化の良さを意識しつつ、異文化理解とともにコミュニケーション力の育成を図る」ための研究方法や視点の持ち方を SSH でも共有し生かして来たところです。また、新学習指導要領への対応を含めて来年度の実施に向けて、全校で行う探究活動としての位置づけを明確にするために、SSH、SGH が互いに刺激し合いそれぞれの研究活動をスムーズにかつ深めていく機会となるような運営方法、組織の見直し、教育課程の一部改編、ICT 環境の構築などの準備を並行して行いました。このように、SSH、SGH 両活動とも研究過程・発表等の共有を深めつつ、改善を重ねながら実施しているところです。

本校では生徒に SGH の目標の達成のための実践を通して「①適切にテーマを設定できること。②その解決に向けた探究活動において、解決段階に応じた目標を適切に設定できること。③目標を達成するための的確な方法を選択して実行できること。④それら进行分析・評価できること。⑤得られた評価から課題を見出し探究活動の改善を行えること。⑥研究成果を発表し多くの人から意見・助言を得て、さらに深く学ぶこと⑦課題解決過程全般を計画的に実施すること。」を身に付けさせるとともに、探究学習での実践を核として、一般の教科や実生活における「学び」全般において「主体性を持って多様な人々と協働して学べる資質・能力」を育成することを目指しています。まだまだ、試行錯誤を繰り返しながら手探りで進めている部分もありますが、これまで同様に課題を洗い出し改善を図りながら全校体制で今後も一步一步着実に進めてまいります。

最後になりますが、本事業を実施するにあたってご指導いただきました文部科学省、千葉県教育委員会、運営指導協議員の皆様、千葉大学・東京大学の先生方はじめ、多くの大学関係者や関係各方面の関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、本校では、SSH、SGH の両指定を誇りに、生徒が主体的な探究者となれるように積極的な事業展開を続けてまいりますので、これからも御指導御協力を賜りますようお願い申し上げます。